令和７年度 第１回野洲市図書館協議会 会議録

◎開催日時 令和７年（2025 年）7 月 11 日（金）午後1時 30 分～午後3時 30 分
◎開催場所 野洲図書館本館 会議室
◎出席者 図書館協議会委員９名、教育長、事務局３名（図書館長、司書２名）
※委員１名欠席（傍聴者なし）

１．開会

館長： 本日はご多用の中、令和 7 年度第 1 回図書館協議会にご参加いただき感謝する。本日の会議より新しい協議会委員のメンバーのみなさまと野洲図書館の運営に関して意見を交わしていくことになる。みなさまの任期は令和 9 年 4 月までの 2 年となるが、委員のみなさまには館運営にご支援ご協力いただけたらと思う。館長職は今年で 2 年目。まだまだ職責の重さに対して力不足の感がぬぐえないが、市民のための図書館づくりに力を尽くしていきたい。また、本日は野洲市教育委員会より北脇教育長にご参加いただいている。せっかくの機会なので、議事のなかでも図書館行政、教育行政に関して意見を交わしていただきたい。それでは北脇教育長より、ご挨拶を申し上げる。

2.教育長挨拶、委員自己紹介

教育長：ご多用の中、例年以上に高温が続く暑い中、図書館協議会にご出席いただいて感謝する。また、常日頃は本市の教育行政、図書館運営に格別のご理解ご支援を賜り、改めてお礼申し上げる。昨年度、教育委員会では「第 4 次野洲市子どもの読書活動推進計画」を策定した。子供時代の読書の大切さについては、この策定の経過の中で改めて痛感したところ。今年度より、学校司書を配置することができた。財政上、わずか 1 名からのスタートではあるが、学校司書の活動を軌道に乗せていくなかで、重要性や具体的な効果を可視化し、将来の増員につなげていければと考えている。子供にとっての読書は、言葉を学び、感性を磨き、人生をより豊かにする、生きる力を身に着ける上で欠くことのできないもの。子供たちが将来にわたって学びを続けていけるための基礎となる読書習慣を身につけられるよう、取り組んでいきたい。野洲図書館においても、例えば移動図書館や駅前の受取ボックスの設置などと合わせて、各種のイベントなどを開催し、一冊でも本を多く読んでもらえるように、また一人でも多く図書館に来てもらえるように職員一丸となって取り組んでいる。また、今年度は野洲市教育振興基本計画第 4 次計画の策定、そして市の総合計画の後期計画の策定が進められている。市民の将来にわたる学びを、資料の提供により支える観点から、図書館の果たすべき役割を明確化し、今後の図書館行政の活性化につなげていければと考えている。結びになるが、今年度は滋賀県で「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」が開催される。本市においても、バスケットボール、卓球が開催される予定。この大会は、地域の魅力を全国に発信する絶好の機会であると同時に、スポーツを通じて多様性と共生の大切さを再認識する機会でもある。みなさんもぜひ選手たちに熱い声援をいただき、大会を盛り上げてほしい。以上、簡単ですが挨拶とさせていただく。

館長：それでは、今回は現任期最初の協議会となる。今回から新しい委員さんにも着任していただいている。資料４に名簿をつけている。まずは簡単に自己紹介をお願いしたい。

委員：今回から委員を務める。定年退職してからは、長浜と草津のまちづくりセンターにおり、長浜にいたときに図書館といろいろ取り組んだという経験がある。そのような経験から、野洲図書館についても考えていければと思う。

委員：野洲市の子どもにたくさん本を読んでいただけるようにしたいと思う。

委員：現在は野洲中学校で読書ボランティアをしているとともに、野洲おはなしの会夢ふうせんのメンバーとしておはなし会などもしている。主に秋の読書週間に、人形劇などをしながらおこなっている。

委員：数年前まで野洲図書館協議会にいた

委員：本業は福祉関係、特に障がい者福祉。今は守山にいるが、以前はびわこ学園の職員もしていた。

委員：この図書館ができる際のワークショップに参加し、楡の樹の会を設立した。もともとは図書館で本を読めば取り寄せてもらえると知り本を読み始め、中高年男性にもっと本を読んでほしいと思い始めたが、最近は子供たちが本を読まないことに対してどうするかを考えられればと思っている。

委員：昨年度は野洲北中から参加していたが、今年は人事異動により野洲中からの参加。市内で働くのは今年で 28 年目で、おそらく退職まで野洲で働くことになると思う。

委員：県立図書館で調査協力課にいる。調査協力課というのは、レファレンスと、図書館への貸借の業務を担当する。30 数年勤務しており、勤務しはじめたころは野洲図書館は現人権センターにあった。この建物になってからは子供を連れて絵本コーナーに来ていたという縁もある。

委員：京都から引っ越してきたので野洲にはあまり詳しくないが、京都では図書館でボランティアをしていたので、ほかの図書館にも興味があり参加した。素人の考えだがお伝えして、野洲図書館が良いものになればと思っている。

館長：本日、祇王小学校の松本校長からは公務のためご欠席の連絡をいただいている。続きまして本日事務局として参加している図書館職員の紹介もさせていただく。

事務局2名あいさつ

3.協議会会長・副会長選出

館長：それでは、会議を開始する前に、今期の図書館協議会会長と副会長を選任したい。野洲市図書館管理運営規則第８条、「協議会に会長及び副会長１人をおき、委員の互選によりこれらを定める」という規定があり、みなさまの中から選出をお願いしたいが、立候補や推薦、ご意見などあるか。

委員：前回から会長職・副会長職は変わらない方がよいと考えている。私の意見としては前期からの会長・副会長さんに引き続きやっていただくほうがより強化されたものになるだろうと思うので、推薦させていただく。

館長：今、委員さんより前年度と同じく会長は早川委員、副会長は松山委員でお願いしたいという推薦がありましたがいかがか。

（異議なし）

館長：では、改めて今期の図書館協議会会長に早川氏、副会長に松山氏でお願いする。席の移動

と、簡単な挨拶をお願いしたい。お二方とも長期にわたり協議会を務めていただいている。図書館行政への深い見識もあり、私も適任かと思う。では簡単に着任の挨拶をお願いしたい。

副会長：こんなに長くにわたって図書館協議会の副会長をさせていただくなかで、野洲市の市民のみなさんの知識欲を満たすためにという思いと、図書館職員の活動を拝見して、野洲市が良い市であると実感するとともに、もっと良い図書館になると確信した。

会長：長く会長をさせてもらっている。去年あたりから図書館基本方針を作る話がでている。この任期中にそれを成し遂げてからやめたいと思っている。野洲図書館の課題としては利用者が減っていっていること。ほかの市でも利用者が減っている図書館はあるが、野洲は違うというところを見せたい。

館長：本日は 10 名の委員のうち過半数の 9 名の参加があったので、野洲市図書館管理運営規則第 9 条第 2 項の規定により本協議会が成立していることをご報告する。なお、この会議は公開の対象となっており、議事録は情報公開の対象となっている。議事録は終了後図書館HPで公開するのであらかじめご了承いただきたい。本日は傍聴の希望者はいないが、途中入室される可能性もある。議事に入る前に、資料の確認をさせていただく。
では、これより先の議事進行は協議会会長にお任せする。

4.議事

（1）令和6年度 野洲図書館事業報告について

委員：議事の前に、教育長がいらっしゃるうちにお話ししておきたい。この会議の場でも学校司書については何度も出ていた。今回一人とはいえ実現したのは協議会としても喜ばしい。ほかの協議会を見ていても、教育委員会との連携は非常に大切だと思う。今後も、ご多用だとは思うがこういった場に足を運んでいただき、連携を深めていただいきたい。

会長：では事務局から説明をお願いする。

館長：資料としては、野洲図書館事業報告の概要編と資料編から説明させていただく。昨年度はこれに加えて事業の総括という資料をつけていたが、今年度は体調不良ため作成できなかった。まず、昨年度の事業報告の概要編から説明する。昨年度は大きな事業として、空調工事の更新工事があり、そのため昨年は 11 月ほぼ 1 ヶ月本館を休館した。工事は終わったが、まだ若干の調整は必要。開架についても空調の効きはよく、みなさんが集ってもらえるような空間は整えられたかと思う。休館があったことは織り込み済みで、貸出の冊数は落ち込むだろうと予想していた。最終的には 464,242 冊が昨年度の貸出冊数。減り幅については当初予想していたよりも少なかった。昨年度 12 月～2 月については暖房が効かない状態で開館しており、利用が落ち込むと予想していたが、本を借りて帰る間だけなら支障は少なかったのか、落ち込みが限定的だった。昨年度はイレギュラーなこともあったが、空調も直り、これから通常のコンディションの中でどう個人貸出しを戻していくかは要検討。その進捗については年度半ばの報告として次回の協議会でもご報告できればと思う。その他、貸出人数、予約の受付数、問い合わせ件数も減少傾向。問い合わせ、レファレンス件数については前年比マイナス 35.4%とかなり大きく減少している。これについては職員間でも検討した。問い合わせを受けた際に統計のチェックができているか等は確認しているが、大きな要因としてはよく問い合わせをされていた常連さんが問い合わせをやめられるなど、個人の大きな利用が無くなったことがあるかとは

思う。それにしても35.4%の減りは大きい。レファレンスのPRなども進めていく必要があると考えている。
実利用者数も市民の実利用がマイナス 3.8%。休館期間の影響をみると予想より減り幅は少ないが、減少傾向にある。特に子どもの利用について、子どもの数自体が減っているので、実数はあまり増えないかもしれないが、子どもの利用を増やしたい。また、顕著に読書から離れている 30～50 代の大人世代の掘り起こしも必須である。
その中で、昨年度第 4 回の協議会でも報告した通り、図書館の資料費については今年度も減った状態のまま。概要編の（4）の表に購入冊数と貸出点数のグラフをつけている。相関関係があるかどうかは議論の余地があるが、令和元年～3 年の間には 1 万冊買えていたところが令和 6 年に予算が大幅に削減され、買えた冊数は 6400 冊。これが今の図書館の資料提供のパワーである。資料費が減ったことに加え、本の価格高騰の打撃を受けている。ここに関しては粘り強く予算要求を進めていくというしかない。この現状に関しては教育委員会内、しかるべき部署にも情報共有はしている。
今年度から採用した学校司書を図書館として支えていきたいという思いもあるが、子供の本の価格は調べ物の本だと 1 冊約 3000 円以上と高価なものが多い。この資料費のなかでは、予算を割いてそういった本をそろえるのは現実的ではない。ただ学校図書館事業、学校司書を活用した学校現場での子供の調べ学習や読書などは図書館として支援していきたい。学校司書・学校図書館支援員からの資料要求については応えられるように進めていきたい。
今年度の予算も低い水準で、資料の調達については苦戦するだろう。ただ、元々リクエストのあった資料をすべて購入しているわけではない。滋賀県立図書館はじめ県内の他館の協力もあおぎながら、資料を確実に提供できるように進めていきたい。
ページが変わり、「子どもと本をつなぐ だれでも図書館を利用できる仕組みづくり」について。
「子どもと本をつなぐ」という面に関しては、学校への支援について先ほどもお話した。冒頭の教育長の挨拶にもあったが、今年度は「第 4 次野洲市子どもの読書活動推進計画」がスタートした年で、その年に学校司書が初めて採用されたということを契機にして、計画が計画倒れにならないように、図書館としても「本を必要としている現場に本を届ける」ことは継続していきたい。本日は篠原小学校へ、数日前には祇王小学校などでブックトークをおこなった。今年は、秋冬のブックトークも含めて、全校全クラスに入れる予定。学校司書にも担ってほしいが、図書館の業務としても関わっていきたい。
（7）「だれでも図書館を利用できる仕組みづくり」については、バリアフリーサービスや移動図書館、予約本受取ボックス等を挙げた。予約本受取ボックスの状況は変わらず、フル稼働している状態。キャパシティいっぱいの提供でこれくらいの冊数だろうという状況。もう少し回転数をあげたいということでGW明けから取り置き期限を 5 日間から 1 日短くして 4 日間に変更した。結果、少しずつ待機冊数は減っているが、実際の貸出の回転数はあまり変化なし。もう少し長い目で様子を見たい。その他、4 ページでは昨年度の事業について報告している。今年度も同じように事業を進めているが、それについては後ほど説明するので、この項目ではここまでとしたい。
蛇足になるが、概要編の 2 ページ目下にあるのは人口 5～6 万規模の市における貸し出し冊数上位の地区の表。毎年載せているものなので、今年も触れておく。全国的な規模で集計したところ、人口 5～6 万規模の市ではまだギリギリ 5 番目に活発に貸出を行えている。統計自体は 2023 年の統計値なので昨年の数字だと減少はするが、昨年度の貸出が最初にご報告し

た通り 464,000 冊であることを考えると、減っても田原市とは競えていたか。競うのもおかしな話ではあるが、そういう状態。早川会長が野々市市の図書館に行かれたということなのでその話も時間があればお伺いしたい。白河市についても、Web の記事によると貸出の 3 割が漫画とのこと。貸出を延ばすにはそれなりの工夫もあるだろうが、その館の資料費はおよそ野洲市の 3 倍という自治体。まずは基本的な投資が必要。

そのあとに資料編をつけている。細かい数字をつけていて一つ一つご案内すると時間が足りないので割愛させていただくが、またお目通しいただけたらと思う。こちらからは以上とさせていただく。もし質問などあればお願いしたい。

会長：ではこの報告に関して質問・ご意見などあれば。

委員：資料には図書の購入冊数が減って資料の新鮮味が落ちてしまうと書かれているが、資料費が元の予算規模に戻った場合、借りてくれる人はそれに付随して伸びるものなのか。

館長：どんな本を買うかというファクターも絡んでくる。確かなことは、貸出をのばすには選択肢をそれなりに用意しておかないと借りてはもらえないということ。複本、人気のある本については 1 冊あたり12人待ちなど、予約が多数ついているものもある。資料費に余裕があればなるべく早めにご提供できるような対応もできる。そういうところも含めて、（資料費は）必要。ないものを嘆いてもしかたないので、書架での本の見せ方を工夫できるかにもかかっている。この点については後ほど説明させていただく。

委員：本館と中主分館の比率には差があるように思う。何か方針はあるのか。本館がメインで、中主分館は移動図書館の延長などと考えているのか。

館長：位置づけとしては、特に中主分館をないがしろにしている意識はないが、物理的に置ける本の冊数が中主分館は最大 4 万冊程度。本館は最大 40 万いかないくらい。それを考えると、そこに行って借りられる本の選択肢が 10 倍ほど変わってくる。実際、中主分館に置ける特に一般向けの本については、同じ分野で複数冊置くことができない。相続に関する本でも、2 冊か 3 冊。蔵書の厚みという点は欠ける。来て、見て、選んで、読んで…というところで考えると図書館としては力不足。図書館としてはオンラインでも予約ができるので、本館の本も予約すれば中主地域の人は分館で借りられるはず。ただ、中主の方には本館に来られる方も多く、私たちが意図しているような、「予約本の受け渡し場所」という機能については改善の余地がある。

委員：本館に来館する利用者のエリア分析はされるのか。中主分館に中主の人が来ているとは限らない、ということか。

館長：「市内地区別利用状況」が事業報告資料編の 15 ページについている。人口が少ないわりに借りてくれる地域もあれば、厳しい地域もある。個人的には西河原など近くに住んでいる利用者に使ってほしい。しかし中学生も帰りには寄りづらく、閉館も 17 時 15 分と早いため、使いづらいのかと思っている。

委員：今日は新しい委員さんもいるが、昨年度から話していたことで、購入冊数は図書館として要になる数字。この数字が上がっていかないのは図書館として恥ずかしいことという話をしていた。今日は教育長もいらっしゃるということで、ここで改めて説明していただきたい。図書館としては予算要求の際に教育委員会や財政当局などに説明をしているはずなのに、なぜ（資料費の）ウェイトが増えないのか。財政的に厳しいのはどこの自治体も同じ。このウェイトを広げて

いくために協議会としてはこれ以上どうやって働きかけや訴えをしていけばよいのか考えなければならない。委員としても野洲図書館に誇りを持っているが、要になるこの数字が弱くなってくることに危機感がある。予算要求のどの段階で止まってしまうのかもう一度説明してほしい。

館長：予算要求のプロセスからまず説明させていただく。野洲市の行政は枠予算という考え方をとっている。昨年までの事業をベースに鑑み、次年度予算の配分を教育委員会という枠をつくって枠ごとに予算を配分する。その中で、教育委員会の各課に予算を振り分ける。各課は必要なものは必要として積み上げて要求する。図書館としても資料費は肝心要のものとして必要最低限の金額、本当は 1 万冊買える分、現在だと 2 千万円を超えるくらいが欲しいが、今の財政事情ではそこまで要求するのは現実的ではないということで、少なくとも同一規模の県内の自治体、湖南市と高島市と同等額の資料費を配分してほしいという方向性で財政と協議してきた。ただ、予算要求をして、査定の段階で切られる。そこについては復活要求を出して、教育委員会として切られたけれども必要だからつけてくれという要求をする。それが最終的に市長査定までのぼっていく。昨年、予算の積み上げのプロセスは私も最終の段階まで同席して見させていただいた。ただ、教育委員会に関しては案件が多かった。プールと、プールまで子どもたちを運ぶバス代、ALT、学校司書、教職員の業務負担軽減のために放課後にかかってきた電話への自動応答システムなど事業が多い。その中で資料費についても市長の目にふれるところまで予算要求は上げたが、教育委員会全体の中の優先順位などもあり望む予算まで至らなかった。ただ、必要ということは教育部長、教育次長、教育長も認識としては一致している。引き続き粘り強く予算要求を進めていくしかないと思っている。

教育長： 昨年度の予算も前年度に比べ、市全体の予算が 12～13%減少している。前年度に同じくらいの本を買っていても、予算がそれだけ減っているので、どうしてもそこよりも予算が目減りしてしまうという状況だったのは確か。館長から話もあったが、全県に比べ今まで野洲だけになかったものというのが、学校司書、ALT、自動応答電話。この 3 つは、県内ほか 18 市町にはあって野洲だけにないというものだった。それぞれのときにやっておけばよかったものだが、できずに積みあがってきたもの。今年度も昨年度に比べ予算が減っている状況の中で、枠配分でやっていかなければならない。そういう状況の中で、ぜひ次年度にしなければいけないものを優先させていただいた。その中で、資料費については、もちろん私も図書館は大事だと思っているし、本も好きで何とかという思いはあるが、他の予算との絡みもあり、要求通りには上げられなかったのが正直なところ。今年度は次年度に向け昨年 10 月に市長が代わり、現市長は「若者に選ばれる町に」という思いを持たれている。そういうことを考えると、子育てや教育の分野にかけてはもっと充実させていかなければならないという思いはお持ちのはず。その中で資料費についても要求を続けていきたいと強く思っている。

会長：資料を見て驚いた点がある。貸出冊数推移をみると、貸出の減りは工事を考えると少ないという報告もあったが、令和 2 年のコロナの閉館のときは今回よりも長く休館していたのに、今回はそのときよりも減っている。やはり貸出されていない。資料費の減りが影響していると思う。

もう一つ、詳細編の 45 ページ、に「守山・草津・栗東の図書館での野洲市民の利用」というページがある。守山図書館に野洲市民が借りに行っている。貸出冊数の推移はここ数年増えていて今年は 55,000 冊。毎年 5 千冊ずつ増えている。野洲の図書館に魅力がないということ。魅力がないというのは、本がないということ。野洲市民が本を読んでいないわけではなく、守山図書館にとられている。野洲での貸出冊数は 465,000 冊という報告があったが、本来は（守山

で野洲市民が借りている）5 万冊をプラスして 51 万冊。その 2 点が今回の資料で問題視した点。図書館に投資がされていない。図書館はすべての年代の人が使う場所。詳細編の 9 ページを見ると、（ほかの年代の利用は）みんな減っているにも関わらず、80 歳以上の利用は増えている。高齢者もみんな本を読んで楽しんでいるということ。図書館に投資すれば全世代に還元できる。図書館に投資すれば、全世代が利益を得て成長できるという施設。ぜひ投資をしていただきたい。

館長：資料の 44 ページには、それまで野洲図書館が守山市民にたくさん資料を貸していたということも載っているが、それが今は逆転している。2002 年に開館してから 10 年以上はこちらから 10 万冊ほど守山市民に貸していたが、それが今では減っている。44 ページの表を見ても、守山市民の野洲での貸出が 3 万冊を切った。それ自体は悪いことではないが、自分の町の図書館と比べて野洲が「この程度」と思われているようでそれは悔しい。早川会長がおっしゃった通り、新しい本がないというのは大きいと思っている。入ってくる本の数も前年から令和 5 年度から比べても比べ 2 千冊くらいは減っている。50 週で割ると、週当たり何十冊と新しく入ってくる本の冊数が減っている。よく借りられるジャンルでも本の選択肢が少なく、もう 1 冊借りたいと思う本がなかっただろうと思う。

委員：教育長さんはご存じだが、市長さんやできれば議員さんも含めて、こういう声を知ってほしいと思う。守山に追いつこうとしなくてもよいが、野洲には野洲の魅力があるのでそれを充実させたい。とくに執行部の財政を動かす人たちに現状を知ってほしい。今回良い機会なので諸々の方々にこういった声を届けてほしい。

委員：購入も大事だが、今ある本をきれいにすることはできないのか。返ってきた本を拭いてから戻すなど。以前利用していた図書館ではそのようにしていた。難しいことだとは思うが、そうするとやはり並んでいる本が美しい。予算はすぐには増えないが、ある本に少し手を加えてみてもよいかと思う。

副会長：教育長・館長からも説明があったが、財政への要求には段階があり、大変な思いをしてくださった結果ということはお話いただいた。しかし図書館の老朽化や、プールが修理不能ということについては前から分かっていたこと。

ALTの廃止した経緯も、10 年以上前に教育委員会の人に各校長先生がたが「ALTは英語教育に役立っていない」と聞かされ、特別支援教育に予算を回すために廃止した。そのおかげで野洲市の特別支援教育の状況は県内でも誇れるものになった。しかし他市から来た先生方はとても驚く。司書もいないし、ALTもいないということについて他市から来た先生方はかなり不満を持っている。そこでようやく前年度に重なって実現した。どれも 1 回にまとめて実現させたから図書館の資料費を減らす、というのはおかしな話だと思う。市長が代わったこともあるのかもしれないが、教育環境に関して、常に統計をとって計画をして何年後にどういった予算が必要かを試算していくのは教育委員会の仕事。現場の先生がたにはそんな余裕はない。教育委員会はその学校、また市民の知識欲を満たすために、野洲市の教育について検討していく場でなければならない。簡単に削れるところから削ってきて予算を捻出するのは見込みが甘いのではないか。北野小学校のトイレが水漏れしていて使えないというのも前から分かっていたことであるし、それらを同時に解決しようとする計画も、代々担当の職員が変わるとはいえ、見込みが甘く、今後が不安。市長が変わられたところで資料費の予算を要求してくださるという

ことなので来年度の予算には期待したい。学校司書についても、ALTと同じように、学校司書がついたのに子供が本を読まないということでは廃止になってしまう。先日、中学校で学校図書館に初めて来たという中学生がいた。非常に驚き、「良い本がたくさんある」ことを伝えた。なぜ今まで来なかったのか。図書室が開いておらず、いつも鍵がかかっているから。学校の教員は、生徒が図書室に隠れるかもしれない、図書室の資料を生徒が破損するかもしれないという懸念から鍵をかけざるをえない。学校司書がついていないためそうせざるを得なかった。ようやく一人ついたが、たった一人。メインで入れるのは中主小と篠原小の 2 校。ほかの学校は年 7 回。足りない。優秀な司書の方なので、1 回来ていただけると学校図書館は見違えるように綺麗になる。資料の整理・廃棄・選別などもしてくださる。ようやく一人いれていただいたが、体裁が整っただけであって、全く足りない。教育に関する要求は限りなくあるが、重ならないように計画的に考えていただきたい。たった一人ではあるが、配置をしたのだから学校司書が入っているところと入っていない学校で差がわかるようにしてほしい。司書が入るとこれだけ変わる、というのを年 1 回でも分かるようにしてほしい。学校図書館の研修会で多くの学校が実践報告をするが、そこで「たった 1 人の司書でこれだけ変わった」というのを見せられたら、税金を使った意味が市民にも伝わる。配慮をお願いしたい。

館長：簡単に回答をさせていただく。汚れた本をすべてふくのは難しいか。今も特に汚れた本はよけておいて、就労支援のボランティアのグループに来ていただき、ある程度きれいにしていただいているので継続したい。財政については語りだすと限りがないが、学校司書については次年度の予算要求につなげるためにも報告しなければならないと思っている。学校図書館支援員として野洲図書館からも司書が一名ついている。そこからも半期くらいの報告を出してもらって分析したいと考えている。みなさんも興味があるかと思うので機会があればこの場でも報告する。学校司書の配置については図書館の管轄ではないが、学務課とも調整しながら進めていきたい。

会長：報告のなかで出た野々市の図書館の話。先週の土曜日に行ってきた。野洲図書館とよく似た感じの大きさの図書館だったが、あまり参考になることはなかった。2 階建てで、2 階は学習室などになっている。1 階部分が図書館。ただ、2 点参考になりそうなことがあった。1 つは小学校入学時に図鑑を配っていること。ブックスタートのような形。それは結構好評とのこと。もう 1 点は図書館で調べるコンクールをしていること。野々市市のというよりは、この図書館を使っている子どもたちでコンクールをしている。入賞者を掲載した冊子がある。ただ調べものを手伝うというだけでなく、コンクール形式にしている点

館長：図鑑の話は初めて聞いた。すごいと思う。ただ、野々市は図書館への投資額が野洲の 3 倍。野々市市は指定管理で運営しているが、成果を上げるにはそれなりの投資が必要ということかと思う。野々市市は土地柄、隣に金沢市という大きな町があるということもある。野々市市は市外在住でも利用可能で、市外からの利用も多い。ある意味いびつな状況かとは思う。

会長：大府市の図書館でもそうだったが、野々市でも貸館スペースでエアロビクスをしていた。エアロビクスをすれば人がたくさん来るということか。

館長： 野洲でもエアロビクスはしている団体がある。

委員：人口が 5～6 万人の同規模の市の中では野洲は頑張っている方。白河の図書館も見たが、貸出冊数の一割が漫画。この順位にこだわるわけではないが、これ以上細々としてほしくはな

い。なんとか頑張って維持してほしい。
館長：応えられるように頑張りたい。予算は欲しいが…。

委員：昨年度に配られた図書館内ミーティングでの研修資料を、今年度から就任した新しい委員さん向けにも配ってはどうか。
館長：ユネスコの宣言についての資料か。
委員：たいへん感動した。県立図書館での研修にも使用したい。
館長：了解した。

（2）令和 6 年度 野洲図書館事業評価について
会長：事務局からお願いする。
事務局：先ほどの事業報告の説明ともかぶる部分があるため、割愛しながらご説明する。資料 3 の事業評価シートをご覧いただきたい。委員の皆様には事前にお配りしている。様式に変更がある。成果指標と目標の欄に、以前まではなかった昨年度の実績の欄を追加している。今回は R5 年の実績になる。3 つのシートすべてに追加されている。まず「市民の必要とする資料と情報の提供」のシートの、成果指標と目標の欄についてご説明する。先ほど説明があった通り、空調工事で休館があったため貸出冊数が減っているが、11 カ月間の開館と考えて 12 カ月分に換算すると、昨年度より同程度、もしくは昨年度以上となる。こちらについては実質的には達成していたかと考えている。ただこちらも、レファレンス件数に関しては大幅に減少しており、具体的な原因も不明。現在、原因の究明含め検討中で、今後のPRも必要と課題があるため、自己評価はCとしている。目標値について、R7年度の貸し出し冊数と利用者数の目標は少し上乗せした形で記載している。
「こども、若者と本をつなぐ」のシートについて、先ほどのシートと同じく、児童書の貸出数に関しては 1 カ月分を加味すると昨年度と同等レベル。取り組み実績のところに記載したが、昨年度は子供を対象とした事業に加え、YAを対象とした夏休みの事業も積極的におこなった。ただ、子供の利用が伸びないという点に関しては今後も何らかの取り組みを継続していく必要がある。利用に関しては大きな減少がなかったと考えたのでBとしている。
「誰もが利用できる図書館サービス」については、予約本受取ボックスの回転数を上げるため、取り置き期限を 5 日間から 4 日間に変更している。現在状況を確認中。バリアフリーサービスについては、いろんなイベントや空調工事による休館の影響もあって出張事業があり、そういった機会に積極的に PR をおこなった。郵送サービスについては今後なるべく増やしていきたいと考えており、今年度少し目標を上乗せしている。アル・プラザ野洲での移動図書館の数値が出張貸出数に入っているが、増加傾向にあるため、こちらも目標を少し上乗せしている。全体的な自己評価については B としている。詳しくはご確認いただきたい。

会長：何かご意見などあれば。
館長：少し補足。当館の自己評価についてはこのように記載したが、次回の図書館協議会の中で委員のみなさまからのご意見・評価を合わせ外部評価を設定したい。宿題になってしまうが、事業評価シート、昨年度の統計資料の数値などご確認いただき、みなさまからのご意見と評価を次回の会議までにお送りいただければと思う。

会長：次回開催に間に合うよう、8 月末までに提出してもらうかたちではどうか。
館長：それでお願いしてよいか。紙に書いていただいても良いし、メールでお送りいただいても良い。体裁は問わない。各委員のみなさまの案を書いていただき、集約したものを一度会長に共有し、次回検討させていただきたい。新しく委員になってくださった方にはいきなり評価をお願いすることになってしまったが、日ごろ図書館を利用している所感でも構わない。忌憚のないご意見をいただきたい。ご不明点などあれば武藤まで。

会長：事業評価シートをどのように使うのかは説明しなくてよいか。
館長：時間の都合上、説明している時間がないかと思う。
事務局：今回初めて委員を務めてくださる方には事前資料をお送りしている。

委員：レファレンス件数の減少について、マイナス要因として捉えられているが、図書館が何かしたおかげで、利用者が自己解決できるようになったという捉え方はできないか。
館長：図書館の評価とするには甘すぎるか。もちろん図書館の資料が使いやすくなり、利用者が自分で解決できるのがベストとは思う。レファレンス件数がゼロになり、職員の介在なしでも利用者が 100%以上の情報を得られるのを目指すのがあるべき姿。しかし現代の情報社会を考えると、インターネット上のあやふやな情報から間違った発信をするのが社会的にも問題になっている。図書館の活動としては、「こういう風に資料を使えば正確でより深い情報が得られる」という周知は進めていく必要がある。私どもの思いとしては子供を含めて（レファレンスサービスを）もっと使ってほしい。当面はレファレンス件数に関しては指標に挙げたいと思う。今後社会状況が変わる中で、今でいうとAIの使い方についても要検討だが、司書がAIを「使える」力量が必要。AIが出す答えよりも素晴らしい答えを返せる図書館でありたいと思っている。
委員：レファレンスに関しては、窓口に行ったものだけをカウントしているのか。館内で通りがかりの職員に声をかけたものも含むのか。
館長：すべて含む。電話で受けたものもあげている。

副会長：一人当たりの貸出冊数が減っているというお話はあったが、予約や駅ボックスなどもあって便利になり、本があればいつでもすぐに返事が来る。一回にたくさん借りるのではなく、読める分だけ借りるようになり、一度に何冊も借りていかなくでもよくなったからではないか。
館長：いろんな分析があると思う。コロナがあり、今図書館の棚にある本を予約して、自分は借りに行けばいいだけという状況になっており、便利に使っていただいている。しかし一番のデメリットが（今回の貸出冊数の減少に）影響しているかもしれない。要するに、読みたい本を予約してそれだけ受け取って他の本を見ずに帰る人もいたかもしれない。予約本受取ボックスはまさにそういう使い方。便利にしすぎたために、図書館の良さが伝わりにくい状況になっているのではないか。我々としてはなるべく棚を見てもらえるような工夫を考えなければならないかと思う。
副会長：空調の不備も影響していたかもしれない。
館長：館内環境は整ったので、もう少しゆっくり滞在しようと思う人が増えてくれれば状況は変わるかと思うが、そこは期待しすぎてはいけないと思う。

（3）令和 7 年度　野洲図書館事業について

館長：資料５の令和７年度野洲図書館事業方針は前回の第４回の会議に案として出させていただき、こういうふうに進めるということはあらかじめご報告をしていたもの。図書館の仕事は年によって大きく変わるものではないが、図書館の業務を網羅的に書かせていただいている。ただ、資料費が減っているなかで、毎日ここに書いてあることをしているだけでは十分な資料提供にはつながらないだろうと考え、今回資料などではお渡ししていないが、館内でプロジェクトチームを立ち上げた。棚の魅力の向上、フロアの居心地の向上などに取り組んでいる。予算が少ない中で考えるのは難しいところもあるが、月に１回程度チームで話し合いをするなど定期的に取り組んでいる。また、子供の読書推進に関しては、今年度は学校司書がついたという大きな出来事もあり、学校司書を学校組織内で孤立させず安心して働いてもらえるようにつながりを持ちながら全面的にバックアップする体制を整えつつ、図書館としても内を改善しながら外に向けてアクションを起こせないか検討している。加えて、冒頭の会長のご挨拶にもあった通り図書館の基本方針についても策定を進めている。今のところ方針の具体的な策定事務については来年度に具体的にスタートしたい。その前段階として、今年度は図書館に関する講演会などを開催し、その中で市民のみなさんからも意見をいただく機会をつくれないか計画を進めている。昔図書館をつくるときのワーキンググループに早川会長も参加いただいていた。今あの時のように熱気あふれる議論ができるかわからないが、図書館について考えてくださる市民のみなさんを募っていかないと図書館の今後の運営もなかなか厳しくなると思う。会が開催されれば協議会委員のみなさまにもぜひご参加いただきたいが、参加者は広く募りたいと考えている。大きくその４つを進めている。そのほか、できることがないか、具体化していない件もいくつかある。もう少し話が進んだ段階でみなさんにもご案内したい。また、市の施策として駅前南口の整備については今までの計画とは違う形で進めていく予定となっている。市長公約の中ではさざなみホールの活用についても子どもの居場所づくりの観点で再検討されている。その中で図書館に声がかかったときに動けるようにしておきたい。待っていてはいけないが、子どもの施設となれば図書館の出番は訪れると考えている。いつ大きな動きがあってもよいように準備を進めておきたい。具体的な事業については、チラシをいくつかつけさせていただいている。今年度既に終了したものも含めてご案内している。7/18 のアル・プラザ野洲での移動図書館はセントラルコートでさせていただく。8/15 の移動図書館については前やった通り工作も含めてにぎやかなイベントにしたいと考えている。聴導犬ポッキーの講演会については、もう終了したが、五十嵐委員のご協力もあり、聴導犬を引退したポッキー、現役の聴導犬のパルム、聴導犬と一緒に暮らしている当事者の方、絵本を一緒に作られた方々におこしいただいた。子どもの参加者も多く、60 人以上の参加があり、聴導犬とはこういうもので、聴覚に障害のある方の暮らしをどのように支えているかレクチャーいただいた。絵本の原画展もしていたので見ていただいた方もいたかと思う。新聞記事も中日と京都二つつけさせていただいている。もともと五十嵐委員から「どうすれば本ができるのか」と相談いただいたというご縁がある。栗東図書館では野洲よりも先に講演会と展示会をされた。五十嵐委員にお声がけして、野洲でも開催していただいた。今年度はじめの事業として、良い事業ができたと考えている。夏休みには「化石とあそぼう」や「一日図書館員」と子供たちが参加できる人気のイベントも予定している。もう一つ、「今月の石」展もおこなっている。武藤係長のコレクションを展示しており、こういったものもやっていけば面白いかということで図書館のカウンター前に設置している。今年度の事業としては 9 月に「としょかんでよふかし」、まだ詳細は決まっていないものの「一箱古本市」なども進めていきたい。その他、図書館の講演会も進めていきたいと思っている。事業に

ついての説明は以上とさせていただく。

会長：何かご意見・質問などあれば。
委員：せっかくなので聴導犬ポッキーについてもう少し五十嵐委員よりお話いただきたい。
委員（五十嵐）：みなさん、聴導犬というのはご存じか。見たことはないのではないか。聴導犬は県内で 3 頭しかいなかったものが 5 頭に増えたが、見る人には「初めて見ました」と言われる。また、目が見えない人を支える盲導犬の仕事は分かるが、聴導犬の仕事の内容については質問を受けることが多い。講演をすると皆さん目を輝かせて聞いて興味を持っていただけるので絵本をつくろうと考え、早田館長にご相談させていただき、立派な絵本ができた。絵本を作った方が栗東に住んでいるので、栗東からは声がかかって大成功だったという話を栗東図書館の館長さんから聞いて、野洲でもやりませんかとお声がけいただいた。たくさんの人に聞いていただけて大成功だったと思う。初めて話を聞いた、初めて聴導犬を見たという感想も多くありがたかった。原画展も広い場所でしていただき、大成功だった。
館長：何より、子供たちがたくさん来ていた。
委員（五十嵐）：質問攻めだった。核心をつくような質問も多く、これだけきちんと聞いていただいたと思えて大変うれしかった。
館長：このあと湖南市でも行う予定と聞いている。今回を逃した方も、ぜひ機会があれば。
委員（五十嵐）：僭越ながら絵本は滋賀県内の 51 館図書館に寄付した。県立図書館には 2 冊。全小学校、養護学校小学部にも寄付させていただいたので、「見たことがある」「この本で感想文を書いた」という子もいて、本当にありがたい。

館長：事業の報告で一件補足。今年度の年度頭に、館長と林司書で野洲養護学校を訪問した。先生方が 20 名ほど集まってくださり、図書館利用のPRをさせていただいた。去年は岡田さゆり先生が協議会委員として積極的に動いてくださっていたが、いらっしゃらなくなり、つながりが切れそうになっていたが、図書館としておはなし会ができること、来館していただいて図書館でもおはなし会ができること、本を借りてもらえること、資料を気兼ねなく借りてもらえることをお話した。特に「気兼ねなく使ってください」という部分に関しては、今まで養護学校の先生は児童が本を破ったり傷めたりするのを不安に思いなかなか利用につながらなかったとおっしゃっていた。今回、破ってしまってもいいから使ってほしい、図書館としては子どもに本を貸すということはそういうこと（破損）が起こりうると織り込み済みで貸すので、安心して使ってほしいとご案内した。今回を受けて、何件か事業も決まった。あちらの現場とのつながりも増やしていきたい。別件で、びわこ学園とも連携し、障害の持っている方がたくさんの本が並んでいる中から自分で読みたい本を選んでもらう体験をする「絵の本の広場」について、加藤啓子先生が実践と講演をするということで、野洲図書館も全面的にバックアップさせていただき、資料の提供と図書館職員も研修として参加した。あとは市内の小中学校の支援学級への支援をどう進めていくかが課題。学校司書と連携しながら少しずつ進めていきたい。子どもたちのなかでも本との接点をもちにくいので、そういう子たちの手にも本がわたるようにアプローチも進めていきたい。

委員：令和 7 年度の事業のなかで、比較的大きい子供さん向けのイベントや事業で決定しているものはあるか。

館長：昨年度の評価シートの中でもご報告しているが、正直イベントの参加は少なかった。期待していたようにはならなかった。図書館で何か開いて中高生に来てもらって参加してもらうことの難しさを痛感した。本を読む子はYAコーナーを中心にたくさん本を借りてくれる。使う子と使わない子の差が大きく開いているなかで、イベントだけでは難しい。今年は去年のようなイベントの開催はいったんやめ、その中でも好評だった館内での謎解きについては継続しておこなう予定。そのほかの事業については今のところ検討できていない。将来像をいえば、学校図書館という現場に本と人をつなぐ学校司書がいて、図書館は学校司書とつながって進めていくのが理想。だが事業をたてる図書館側の職員体制の問題もあり今年度の大きな計画の中には入れていない。

委員：宮島先生の講演会もあったが、若い人に人気のある作家さんの講演会を企画するなど、来館して時間と場所が制約されると難しいと思うので、Webなどでの募集型のイベントとかが実施できればよいと思う。予算も厳しいという報告もあり、前から思っていたことではあるが電子書籍などの導入は現実的には難しいか。図書館を利用するメリットについて知らない子供にも何かPRできることがあるのではないかと思う。人を集めるのが難しいなら作品を募集するとか、野洲市のHPに乗せる野洲市の紹介動画を募集するとか、興味をもってくれそうなことでまだまだできることがあるのではないか。みなさまも一緒に考えていただき、子どもにももっと本を読んでもらえるようにしたい。

委員：安易なことをいうようだが、若い世代に訴えるならSNSが一番手っ取り早いと思うがどうか。公共図書館ではそういうことはしないのか。

館長：しないというわけではない。業務も手一杯で工夫が必要な状態で、どこまでそこにさけるか。自分もSNSで本の紹介をするなどは考えたが、公的な組織から発信することを考えると安易なものは発信できない。始める必要性は感じている。若い世代に向けてというならXよりインスタグラムか、など検討し可能性を探ってはいる。市はYouTubeを始めたので、そこに登場する可能性もある。ただ、やったからといって若者につながるわけではない。我々としてもアナログにとどまっていてはいけないので、考えていければと思っている。

委員：野洲は図書館から高校が遠い。守山は高校が近いこともあり、応援隊がある。高校生が自分たちでPOPを作ったり、本の紹介をしたりして自分たちで棚のⅠコーナーを作ってもらう取り組みもされている。県立図書館でも東大津高校生に実習の際などPOPを書いてもらうことがある。高校生に、というのは難しいかもしれないが、参加型の取り組みもできないか。守山では旧館の時から「としょかんかざり隊」という取り組みもあり、壁面のディスプレイなども依頼している。そういったことはできないか。

委員：コミュニティスクールという取り組みがある。その中で、地域と子どもたちが協働している。高校生は厳しいが、小学校や中学校向けに、図書館の職員が行って講演するなど、学校に向けて地域コミュニティとして図書館をPRさせてもらえないかと発信すれば手を挙げる学校があるかもしれない。校長先生（吉田委員）もおっしゃったが、野洲中にも（図書館には来なくても）本を読むのが好きな子はいて、朝の学習のときに読書してくれているので、読書推進を進めていかねばと思っている。そんな中で、図書館がもう一歩学校に踏み込んでくれるなら協力したい。忙しいので難しいかもしれないが、検討してほしい。

委員：中学校にも委員会活動はあるのか。県立高校の図書委員会が実習として県立図書館を見学に来て、図書館のはたらきなどについてお話したことがある。その時は高校からオファーがあっ

たが、お互いに情報を交換できたらよいと思う。

館長：中学校の図書委員とは関われたらと思っている。学校司書も、今の流れでは中学校にもつくのはまだまだ先かと考えている。現場の空気感もあると思うので、学校図書館支援員の谷口司書とも情報共有しつつ、YA担当と引き続き検討したい。

委員：学校としても、図書委員会と図書館とのかかわりはウェルカム。去年から野洲北中で、図書委員でこども園へ絵本の読み聞かせを行ったが参加が多かった。それを例えば図書館でおこなうなどは進めていけると思う。ただ、今のお話を聞いて、みなさんが中高生の読書推進に非常に興味を持ってくださっていることは感じた一方で、中高生の読書活動についてはもっと長い目で見てもらえたらと思う。中学生になると図書館へ行く回数も大幅に減る。前任の教育長から聞いた話で、保育園で絵本の読み聞かせを園が頼んでも、保護者に読み聞かせをしてもらえない子がいた。中高生の読書量を増やそうと思うと、長い目で見てどれだけ読書に親しめているかを考える必要がある。連携行事の開催というところで、自治会やボランティア団体も挙げていただいているので、各地域で読書習慣をつける取り組みをしてもらえたらと思う。コロナの際に私が教頭を勤めていた中主中は文科省から「子どもの読書活動推進優秀校」の表彰を受けている。室内の図書館が使えないことからブルーシートを敷いて始めた青空図書館や読書通帳など。イベントをすれば子供たちは乗ってくるが、そのときだけにならないように習慣にしていくことが大切。そのためには小さなころから読書に親しんでおくことが必要。意図的にはぐくんでいければと思う。私は教育委員会で専門員をしていたが、健康推進課と一緒に地域を回って防煙教育や食育に関して活動していた。読書についても何かできるのではないかと思う。子どもたちが幼いころからより読書に親しめる環境が作れるのではないか。学校現場としてはウェルカム。

館長：地域に出るという視点は大切かと思う。何ができるかは考えていきたい。野洲北中の菱沼先生が教頭として学校に戻られ、読書推進を熱心に進めておられる。ブックトラックを新しく購入され、そこに図書館司書のおすすめの本とPOPを載せて設置している。そういった活動を皮切りに、学校との距離感を縮めていければと考えている。

（4）その他

会長：そろそろ終了の時刻が近づいてきたが、最後全体を通して何かあるか。

館長：最後に、新聞記事のご案内をさせていただく。一枚目は本市の学校司書である高木さんの写真の記事。県内の中高すべてに学校司書が配置されたという記事だが、配置状況の表を見ていただくと、野洲は学校司書がやっとスタートを切ったという印象だが、他の市を見ても全く良い状況とはいえない。彦根氏は 24 校のうち学校司書の実数は 6 名。先日彦根の学校司書と話をする機会があったが、一人で 4 校担当しているそう。勤務時間は 3 時間。何ができるのかという話を聞いた。まだまだ状況としては発展途上。県の教育長は全校配置を目指すという発言があった。国でも全校配置の議論が文科省で進んでいる。国の方から地方交付税として学校司書の人件費や、学校図書館の資料費が措置されているということをよりどころにしながら粘り強く要求していくことが必要かと思う。担当課ではないが、図書館としてはそう考えている。一枚目、聴導犬ポッキーの下に野洲の山口選手の記事を載せている。最初の教育長の挨拶でも国スポ・障スポの話があった。山口選手は過去野洲図書館に職場体験に来てくれ

たという縁もある。ぜひ応援していただけたらと思う。そのほか、県立図書館のトラブルについてはみなさん新聞報道を見ていただいたかとは思うが、HPに不正アクセスがあり、１カ月ほど県立図書館のHPが休止したということがあった。

委員：図書館HPのお知らせ編集のためにログインするIDとパスワードが不正に詐取されてしまい、書き込みがされてしまった。書き込み自体は正規の手続きで行われた。IDとパスワードがどのようにして盗まれたのかの詳細は業者にも不明。別の図書館で起きうるのかもわからない。復旧自体はすぐに終わったが、原因が分からないと対策が立てられないので、ほかの攻撃への対抗手段などの検討のため仕様書を改めて確認するなどして長く時間がかかってしまった。

館長：この一ヶ月、県立図書館のHPが使えなくなり不便さを痛感した。今まではボタン一つで県立図書館の蔵書を借りる手続きがオンラインでできていたが、そのシステムが止まり、FAXや電話での手続きになり、野洲図書館の利用者さんにもご不便をおかけした。この件に関しては野洲図書館も他人事ではないのできちんとセキュリティなど確認する必要があると思う。

委員：野洲図書館はクラウドでデータセンターで情報を管理しており、一般的にはその方が安全と言われているが、過去には同じ条件の図書館でランサムウェアに感染して情報がすべて暗号化されてしまった館もあるので注意した方がよいかと思う。

館長：記事の最後の一枚、図書館と書店と出版社をめぐっていろいろと動きが出てきているというご案内。地域の読書環境を整えるには、図書館だけが頑張っても、書店だけが頑張っても難しい。両者協力して文字・活字の文化を盛り上げていけるように模索している。下の県庁での今村さんのプレゼンの記事については、書店側からの反転攻勢。今年に関してはいろいろ動きがあるか。図書館としても積極的に絡んでいかないと効果的にはならないかもしれないと感じている。我々としても市内にある「本のがんこ堂」さんなど書店との連携は検討したい。左上の記事、「図書館が多い町は長寿の町」という記事は因果関係があるかといわれると難しいが、何らかの相関関係はあるか。本を読むということ、図書館に出向くということ、図書館行政にお金をかけられる自治体は福祉にもある程度お金をかけられるということなど、いろんな要因があると思う。こういったことも、予算を要求するときの材料になるかと思う。もう少し情報収集していきたい。最後に、みなさんにお配りしている次回の日程調整について、期間が短くなるが ７月終わりの締め切りまでにご回答をお願いしたい。本日は時間も超過したが、今年度・来年度も含めて協議会は忌憚のない意見を積極的に言える場にしたいのでご協力お願いしたい。また、普段利用している中でも何か気になる点や困りごとがあればその都度お声がけいただきたい。以上で本年度第一回の図書館協議会を終了させていただく。

5.閉会